

## アメリカで活躍する卒業生からのメッセージ

### 市倉充智さん

(2015年英語学科卒業/2017年大学院英語学専攻修了)

皆さん、こんにちは。獨協大学大学院外国語学研究科英語学専攻を修了しました、市倉と申します。私は現在、アメリカはワイオミング州にあるワイオミング大学で、Fulbright Foreign Language Teaching Assistantとして働いています。このプログラムでは、教育に関心のある者が現地大学生に日本語を教えつつ、大学の授業を履修します。つまり、教授法の理解を深めると共に、自身の英語力の向上に努め、米国文化への理解を深めることが目的となります。

私は大学院では府川謹也先生と安井美代子先生の指導の下で英語学を専攻し、英語教師としての素養を身につけるべく学んで



きました。しかし、昨今重要視されている長期留学に関しては金銭的な都合により諦めていました。そのような状況の中、浅岡千利世先生から上記プログラムを紹介していただきました。このプログラムでは渡航費や大学での授業料、滞在中の生活費等はFulbrightから支給されるので、「最後のチャンスかもしれない」と思い応募しました。

私は「英語なんて日本で十分勉強できる！」と息巻いていた人間ですし、今でもその考えは変わっていませんが、海外に滞在して気が付いたことが大きく二つあります。

一つは、アメリカ人以外との交流です。確かにアメリカ人との交流はとても有意義ですが、これは留学へ行く前から想像が出来ました。それよりも、ドイツ人や韓国人、バングラデシュ人やウルグアイ人等、世界各地からやってくる留学生と話をすることで、その国に対する認識が変わったり、これまで知らなかった幅広い知識が得られます。それらに影響されて、自分自身の価値観が変容することもありました。英語ネイティブ以外との英会話、その素晴らしさに気が付きました。

二つ目は、やはりアメリカの文化です。具体的に一つお話します。これは私がいるのが大学だから、ということもあるでしょうが、修士課程修了が当然のこととして扱われます。アメリカで本的な事柄や一般教養を院入学後に「専門的な学なようです。また、日本ため、「専門性は大学院ではなく一般的な企業でという図式が徐々に出来聞きます。したがって、の事務の方を含めて、本以上を修了しています。



は、各専攻に関連する基学部時代に学習し、大学学習をする」ことが一般的以上に大学進学率が高いから」「（教育現場だけでも）管理職は修士以上」上がっているという話も教授陣だけでなく、大学当に多くの方が修士課程アメリカは、社会全体が

「教育は社会のため」だと認識しています。これから日本もそのようになっていくのでしょうか。

在学生の皆さん、受験生の皆さん、私のように何がきっかけで人生が変わるか分かりません。いざ、という時に後悔しないように、目の前の課題・受験勉強を頑張ってみてください。そうすれば、自ずと機会は与えられるのかもしれない。